

## 地方史事典

地方史研究協議会編  
東京 弘文堂発行 1997.4  
866p 26cm 22,000円

たくさんの辞書・事典類が出版されるなか、『地方史事典』も新しいスタイルを目指した事典である。本書を企画・編集した地方史研究協議会『地方史事典』刊行特別委員会によれば、「“地方の立場”に基づいて生み出された成果と展望とを集成した事典」であり、「地方史研究協議会のもつ力量のなかで可能な限りの多彩さを求め、地方史の研究の現状を集成」したものという。そのように記された本事典の内容は合計665項目を数える。その地方別の中項目に編集された内訳数は北海道19項目、東北85項目、関東134項目、中部106項目、近畿113項目、中国55項目、四国48項目、九州61項目、沖縄13項目、その他「列島とその周辺」として31項目である。やや地域的偏差も感じるが、これを執筆した研究者はいずれも当該の項目に関係した専門家であり、刊行特別委員会がいうように「地方史研究協議会のもつ力量」ということになろう。

なんといっても本事典の特徴はその地方のそれぞれの地域性を切り取ろうとする項目の立て方にある。北海道地方では、「シャクシャインの戦い」（榎森進）や「続縄文文化」（宇田川洋）はもちろん、「釧路湿原」（佐藤宥紹）の自然から「囚人労働とタコ労働」（田端宏）、「北海道旧土人保護法」（浪川健治）などを載せる。

東北地方では、縄文の常識を次々に塗り替えた「三内丸山遺跡」（福田友之）、「十三湊」（斎藤利男）、「都市平泉」（菅野成寛）などの考古学的な成果の一方で「太宰治と風土」（河西英通）、「生活綴方と国分一太郎」（鈴木実）、「岩手の大正・昭和史と宮沢賢治」（名須川溢男）などの人物論も新鮮である。

関東地方では、まず江戸学関係が特徴をな

す。「安政江戸地震」(北原糸子)、「江戸の岡場所」(吉原健一郎)、「江戸の考古学」(谷川章雄)など。また、「川口の鋳物」(小原昭二)のように各地の特産物の紹介や関東全体の共通性をみた「関東平野の中世村落」(原田信男)、「関東の相給村落」(白川部達夫)は進展した研究成果を示す。さらに、「平塚市博物館」(土井浩)や「村絵図の史料化」(橋本直子)も興味深い内容である。

中部地方では、「内灘基地反対運動」(本康宏史)や「松代大本営保存公開運動」(青木孝寿)、「菊川町高田大屋敷遺跡問題」(原秀三郎)などの運動項目が目を引き。また、「北陸の真宗王国」(久保尚文)、「北陸の被差別部落」(田中嘉男)や長野県の「自由大学運動」(小平千文)、新潟県の「千町歩地主」(本間恂一)、富山県の「富山売薬」(米原寛)など各県の代表的な事例もコンパクトで読みやすい。

近畿地方も、まず運動論関係の項目をあげたい。「近畿の陵墓問題」(外池昇)、「中世城郭の保存と活用」(多田暢久)、「難波宮跡の保存運動」(長山雅一)、「奈良の文化財保存」(猪熊兼勝)、「阪神大震災と被災文化財問題」(大国正美)、「空襲・戦災史研究と史料の発掘公開」(辻川敦)などがある。また、「近江の荘園絵図」(吉田敏弘)、「大和盆地における中世村落景観の形成」(田村憲美)など近年の研究成果も随所にみられる。

中国地方では「草戸千軒町遺跡」(志田原重人)、「益田氏と三宅御土居」(井上寛司)、「荒神谷遺跡」(田中義昭)などの考古学の話題のほかに、「中山間地域の農村景観」(神立春樹)、「鞆の浦景観保存運動」(長谷川博史)、「被爆建物保存運動」(河瀬正利)、「防長の検地」(田中誠二)など地域的な特色も盛り込

まれている。

四国地方では、「瀬戸内の海賊衆」(山内譲)、「今治地方のタオル工業」(越智齊)、「一領具足」(山本大)、「沙弥島ナカダ浜遺跡の保存問題」(丹羽佑一)、「伊予史談会の展開」(景浦勉)、「樟脳」(広谷喜十郎)など多彩。

九州地方では、「肥前陶磁器の流通」(山形万里子)、「肥後の中世豪族」(荒木栄司)、「宮崎兄弟と孫文」(上村希美雄)、「高千穂の山間村落」(大賀郁夫)のほか、『黒田家譜』と黒田氏関係文書」(門野恵)や「大分県立先哲史料館」(三重野誠)、「柳川古文書館」(中野等)など施設紹介も便利である。

沖縄地方では、「琉球評定所文書」(梅木哲人)、「沖縄の地頭制」(田名真之)、「地割制」(山本弘文)、「琉球処分」(我部政男)、「沖縄戦」(大城将保)、「沖縄返還協定」(田港朝昭)などにより独自の歴史の断面を垣間見ることができる。

「列島とその周辺」には、「からゆきさん」(横田佳恵)、「冊封貿易」(名嘉正八郎)、「北方領土」(秋月俊幸)、「朝鮮人・中国人強制連行」(海野福寿・守屋敬彦・金慶海)、「高句麗・渤海と北陸」(小嶋芳孝)などがある。

以上のように、本事典にはこれまで知られてきた有名な項目のほかに近年長足の進歩を遂げた考古学や史料論、各種保存・保護運動などが豊かに盛り込まれ「地方の立場」を堅持する。最後に、文書館運動や史料保存運動に関わる例をあげれば、「埼玉県の地域史料保存運動」(久慈千里)、「新潟県立文書館の地域史料保存」(菅瀬亮司)、「会社史・企業アーカイブス・企業博物館」(青木直己)などもあり、是非に一覧いただきたい。

山本幸俊・前新潟県立文書館